

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「さわやか笑顔 中田っ子」～ 思い合い ひびきあい 共に生きる力を育てます～
○自分らしさを出し合って、共に考え自ら高め合える子どもを育てます。(知)
○自分に自信をもち、互いに認め合い、支え合う子どもを育てます。(徳)
○心身を鍛え、自分や人の命、体を大切にすることを育てます。(体)
○地域の一と・こと・もののかかわりを大切に、地域を愛する子どもを育てます。(公)
○多様性を尊重し、国際社会を実現しようとする子どもを育てます。(関)

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

<自分づくりに関する力>
<コミュニケーション力>

具体化した資質・能力

主体性・積極性 他者を理解する態度・自己を理解する姿勢
思いや考えを表現する力 協働的に行動する姿勢

中期取組目標

○【授業で勝負】 教員それぞれのキャリアステージで授業力向上をめざし、「わかる楽しい授業設計」に努めます。
子どもの「学びに向かう力」を育て、目標に向かって最後までやり遂げる態度を養います。
○【どの子にも心の居場所がある学級・学校に】 自分に自信をもち、互いに認め合い支え合う思いやりの気持ちを育てます。
○【あいさつを地域に広げよう】自らの安全・健康を保持、増進する態度を育て、安心・安全な地域づくりへ参画する姿勢を育てます。
○様々な情報を活用・選択する力を身につけ、目的に応じて効果的に伝える力を育てます。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (学力向上), 具体的取組 (①重点研において、「特別活動」を軸に自分の考えや気持ちを伝え合い、分かり合うためのコミュニケーション力や、他の人の考えや気持ちを想像したり、共感的に理解したりする力の育成に取り組んでいく。②「わかる楽しい授業設計」を進め、児童の心を揺さぶる教材と教師のかかわり方を協働して工夫する。)

学力向上に関わる本校の状況

(1)学力向上に関わる児童の実態
全校的に見ると、学力は市平均をやや上回る程度である。近年学力が低下傾向にあったが、昨年度はもち直す結果となった。全体的に算数における伸びが大きい。
学習・生活意識ともに下の学年になるほど低くなる傾向にあり、学習意識に関しては、全学年が市平均を下回る結果となっている。教科では、特に国語・体育に対する学習意識が低い傾向にある。
「学校の授業は楽しいですか。」という項目において、どの学力層においても「よく分かる」と回答している児童の割合が、市平均と比較して低い。今後、さらに主体的・対話的で深い学びにつなげるための協働的な教材開発や研究を推進し、実践していく必要がある。
(2)これまでの学校の取り組み状況
○主体的・対話的で深い学びの実現による学びに向かう力の育成をめざし、授業実践を通じた指導のあり方の研究。
○主体的に学習に取り組む態度を適切に評価するために、3観点の評価の本質を学び、児童の学びに向かう力を引き出す単元構成や授業展開を研究。
○教科担任制の一部導入による、教師の専門性を生かしたより深い教材研究の実現。また、複数の学級の多様な児童に向き合うことで、子どもに合わせた指導の工夫を追究。
○経験年数が10年以下の教員が定期的に集い、協働して授業研究にあたることで、指導力・技術の向上を図るとともに、学びを日々の授業に還元。

今年度の目標

「授業で勝負！～自ら課題を見つけ、解決に向け主体的に行動できる授業実践～」

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
①中田小の児童に育みたい具体化した資質・能力を見直し、重点研究のあり方を再検討。
②めざす姿を意識した単元計画の作成。1時間の学びによって達成される具体的な児童の姿を想定した本時目標の設定。
③児童が学びの連続性を意識できる単元目標の設定・・・系統性を意識した指導。
④児童が自ら課題を見つけ、「調べてみたい」「みんなで解決したい」と思える、知的好奇心を喚起する課題設定。
⑤児童が学習課題を把握し、どのような方法により解決できるのか、相談し合って学習への見直しをもたせる・・・「やってみよう」という学習意欲の向上。
⑥具体物や視覚教材の使用や実験や作業の導入等、体験的な学習の充実。
⑦意見交換や討論の場の設定による共感し合う機会の充実。
⑧児童が「分かった」「できた」「楽しかった」と実感できるような効果的なふり返りの設定。
⑨共に課題解決をしていく中で、互いに認め合う機会を意図的に設定し、学級の中で居場所を見つめられるようにする。
下半期
①上記の①をもとに具体化した資質・能力と、各教科における育成をめざす資質能力との関連を図った授業の研究(重点研)
②上記の②～⑧の授業改善の視点に基づく実践をふり返り、より効果的な指導や魅力ある単元構想、授業展開を協働して見出す。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心), 具体的取組 (①教育活動全体を通じた道徳教育と人権月間を核とした学年ごと学級ごとの人権教育の推進。人とのつながりから学び、自分も他の人も大切にできる人権感覚の育成に向けた取組を工夫して実施し、保護者地域への発信取り組む。②「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。)

豊かな心に関わる本校の状況

(1)豊かな心に関わる児童の実態
○YPAアセスメントの結果から、自己評価が極端に低い児童や、対人過敏を感じている児童の姿が見られた。また、心配傾向が高い児童も見られる。
○あいさつに課題が見られる。全くあいさつをしないわけではないが、あいさつが相手に届くように「目を見て」行い、気持ちが通じるようなあいさつを指導している。
○特別支援教育相談の案件が増加傾向。学習や対人関係等に困り感を持っている児童への支援や配慮が必要である。
(2)これまでの学校の取り組み状況
○月1回、定期的に「いじめ防止対策委員会」を開催し、困り感のある児童についての情報共有や、いじめを未然防止するための支援について話し合い、全職員間での共通理解を図っている。
○打ち合わせや、職員会議において、児童の共通理解の時間を設定している。職員間で同じように指導ができるようにしている。
○YPAアセスメントを年2回活用し、学級全体の状況や、児童一人ひとりの実態を把握し、個々に寄り添った指導を行っている。
○年3回、特別支援教育相談を実施し、保護者と面談を通して、困り感のある児童への支援と配慮の方法を相談している。取り出し、入り込み、担任配慮、関係機関と連携等、児童にふさわしい支援体制で取り組んでいる。
○自分づくりパスポートに、学期初めと終わり、行事ごとに取り組む、児童自身が自己有用感を高められようとしている。また、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにしている。

今年度の目標

いじめを許さず、自分も他の人も大切にできる心を育む。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
①道徳科の充実
②職員研修実施(Y-Pアセスメント)
③Y-Pアセスメント活用の充実(実施・学級風土チェック・考察・プログラム実施・支援実践)
④児童共通理解の時間設定(打ち合わせ・職員会後)
⑤よこはまこども会議 学校の取組計画・実施
⑥異学年交流の活動の実践
⑦学校生活アンケート活用
⑧自分づくりパスポート作成、ふりかえり
⑨いじめ防止対策委員会実施
下半期
①道徳科の充実
②Y-Pアセスメント活用の充実(実施・学級風土チェック・考察・プログラム実施・支援実践)
③異学年交流の活動の実践
④人権月間を核とした、学年毎の取組と全校的な取組の実施
⑤児童共通理解の時間設定(打ち合わせ・職員会後)
⑥学校生活アンケート実施・活用
⑦自分づくりパスポート作成、ふりかえり
⑧いじめ解決のための生活アンケート実施・支援
⑨いじめ防止対策委員会実施

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体), 具体的取組 (①家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を養うとともに、食育や保健教育を実施していく。②定期的に運動に関わる活動を取り入れて、楽しく体を動かす機会を設定する。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1)健やかな体に関わる児童の実態
・学校や地域に外遊びができる空間は十分あるものの、体を動かす習慣が特に女子に身に付いているとは言えない。そのため、よく体を動かす児童と、そうでない児童との二極化が表れている。
・男女共に休日に体を動かしている割合が低い。女子は体を動かす項目も市の平均より下回っている。
(2)これまでの学校の取り組み状況
○学校保健委員会「食育」「清潔」「運動」の3か年計画で取り組んでいる。前期と後期に年2回学校保健委員会を開催。
○「なわとび大会」の実施。全校での大縄大会。11月開催。
○マラソン大会の実施。1月。
○食育指導では栄養教諭が各クラスを定期的に巡回し指導を行う。
○保健指導。各月に養護教諭が放送で保健指導を実施。
○避難訓練。毎月1回避難訓練を実施。

今年度の目標

学校保健委員会では「食育」「清潔」「運動」の3か年計画の「運動」を扱う。学校保健委員会を中心に学校全体で「丈夫な体作り」について一人ひとりが主体的に考えます。普段の食事や楽しく安全に運動できる方法を模索していき、実施する。

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期
①第1回学校保健委員会「じょうぶな体づくり」について学校全体で考えていく。けがをしない、元気な心と体になるための食事や運動について児童一人ひとりが主体的に考えていく。
②ポッチャ体験や中休みの運動を通して、体を動かすことの楽しさを味わい、誰もがスポーツを楽しむことのできる大切さを理解していく。異学年交流をすることで、他者を理解する態度を育成する。
③「食育」については栄養教諭を中心に、各クラスで栄養指導、安全指導を行う。
④体育の授業では、主体的に対話的な学びを通して、運動することの楽しさや安全に活動する大切さを考える。
下半期
①第2回学校保健委員会「じょうぶな体づくり」について学校全体で考えていく。けがをしない、元気な心と体になるための食事や運動について児童一人ひとりが主体的に考えていく。
②「なわとび」大会の実施。協力して記録更新に向けて取り組み、運動する喜びや達成感を味わう。
③「食育」については栄養教諭を中心に、各クラスで栄養指導、安全指導を行う。
④体育の授業では、主体的に対話的な学びを通して、運動することの楽しさや安全に活動する大切さを考える。